

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

- 「社会で飛躍する子どもたちの育成」
 ○基礎学力の定着と自ら学ぶ力の育成（知）
 ○他者を思いやり、礼儀や規律を重んじる態度の育成（徳）
 ○生命を尊ぶ健康な心と身体の育成（体）
 ○社会に貢献し様々な人と関わり合う態度の育成（公・開）

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<自分自身を高めていく力>

具体化した資質・能力

社会に貢献しようとする姿勢
 未来を創ろうとする意識
 多様性を尊重しようとする態度

中期取組目標

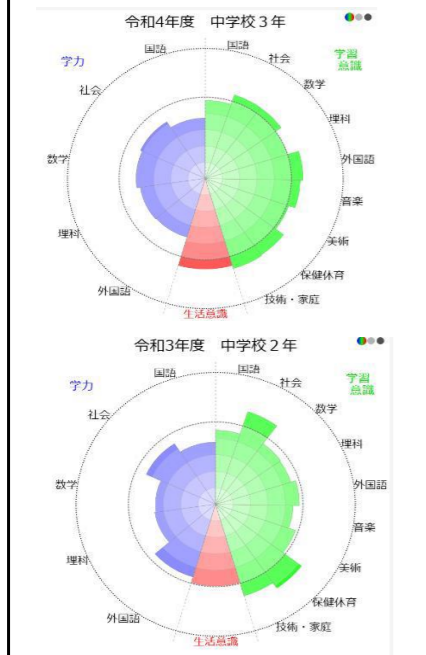
- 全ての生徒の安全・安心な教育環境を守り、地域(社会)・家庭とともに歩む学校を目指します。
 ・子どもの可能性を引き出す個別最適な学びや協働的な学びを確立し、学習の楽しさを実感できる授業を目指します。
 ・豊かな心を育み、子どもとともにいじめ根絶に向けた取組を推進し、規範意識を醸成します。
 ・健やかな体を育めるよう、運動習慣の確立、生活習慣の改善、食生活の向上に向けて取り組みます。
 ・生徒主体の活動を充実させる中で、自己有用感を醸成し、子どもが主体的に行動する力を育みます。
 ・地域(社会)と家庭、そして学校が子どもを育む主体であるという考え方を共有し、地域とともに成長していける学校を目指します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学力向上	①市学力・学習状況調査の結果を研修会で分析し、生徒の姿を明確にして、適切な学習支援を行う。②研究授業を行い、教科や領域を超えて研鑽し合い、授業の充実を図る。③指導と評価の一体化を図り、生徒の学習意欲が高まるような授業の工夫・改善を行う。
担当	研究研修部

学力向上に関わる本校の状況

◎生徒の学習意欲は各教科で高いことが読み取れる半面、学習成果の定着に課題が見られる。より生徒が「分かる。」ということが、「見える」評価を意識することで、意欲と成果を連動させる取り組みが必要である。



今年度の目標

- ①「授業」や「教材」、「評価」を工夫して、生徒の意欲と学力を結び付けていく。
 ②生徒の学習意識や生活意識を調査し、各教科で分析を行い、授業力向上に努める。

目標を実現するための具体的行動プラン

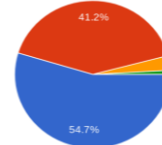
- 上半期**
- 職員全体で、指導と評価の一体化と学習評価の改善に向けて、学習評価・評価評定の在り方について確認をし、生徒の意欲を学力向上に結び付けていく。
 - 1学期に研究授業週間を設け、お互いの授業を見合うことで、「教師一人ひとりが指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学習を振り返って、次の学習に向かうことができるようにする」ことを目標に授業の研鑽を行う。
 - 試験前に学習相談を行い、試験に向けた学習方法などについて支援を行う。
 - 学習状況調査からの分析を活用して生徒の学力をより正確に図る発問と作問づくりに努める。
- 下半期**
- 生徒の学習意識や生活意識を調査し、各教科で分析を行い、授業力向上に努める。
 - 学期に1回の研究授業日を設け、職員全体で研修会を行って、教職員一人ひとりの授業力の育成に努める。
 - 試験前に学習相談を行い、試験に向けた学習方法などの支援を行う。

豊かな心の育成推進プラン

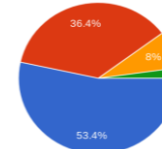
重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①ローテーション道徳を取り入れ、また、授業研究会を実施し、道徳の授業力向上を図る。 ②Y-Pアセスメントを活用するための研修会を実施し、生徒理解を深め、教職員の人権意識の向上を図る。③多様な学びの場を整備するとともに、小中間の滑らかな接続を図るために、関係機関との連携を密にする。
担当	学習指導部(人権)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態
 学校評価アンケートの結果から、規範意識が高い生徒が多いと言える。また、安心して学校生活を送っている生徒が多いが、不安感を抱いている生徒もいるため、誰もが安心して学校生活を送ることができる環境整備が必要である。
 【学校の決まりやルールを守っていると思うか】



【安心して学校生活を送っているか】



(2)これまでの学校の取組状況
 ・道徳教育の研究授業、研修会
 ・教室環境のユニバーサルデザイン化
 ・Y-Pアセスメントの研修会

今年度の目標

- ①学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実を図ります。②生徒の自己有用感の向上を図り、誰もが安心して生活できる環境を作ります。③共生社会の実現に向けて、交流及び共同学習を充実させます。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期**
- パッケージ型ユニット道徳を取り入れ、年間指導計画を改善し、道徳の授業の質の向上を図る。
 - 年度初めにY-Pアセスメントについての研修会を実施し、その後各学級でY-Pアセスメントを行い、学年でチームとして支援の方向性を決め、学級運営を行う。
 - 年度初めに多様な学びの場についての研修会を実施し、学校全体で共通理解をもって交流及び共同学習を進める。
- 下半期**
- 校内研究授業を踏まえ、「考え議論する道徳」の授業を実践する。
 - 年度途中に再度Y-Pアセスメントを行い、必要であれば支援の方向性を修正し、学級経営を行う。
 - 教職員における障害特性等の理解についてOJT研修を行い、教師が主体的に学び、学校全体で組織的に交流及び共同学習を実施する。また、中学校の授業を小学生が見学する機会を設け、小中間の滑らかな接続を図る。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①生徒が運動に関心をもち、習慣化できるよう、保健体育の授業や行事への取組を通して生徒の体力向上に取り組む。②生徒自らの振り返りを大切に健康教育を実施する。③生徒及び家庭への健康づくりに関わる情報発信の充実を図る。
担当	保健体育科・保健安全

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる生徒の実態
 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果から、令和3年度より日常生活での朝食や睡眠の習慣が規則正しくできていない。生活環境の変化に応じて、セルフコントロールする力が必要である。学校評価アンケートの結果から、「体育の授業が楽しい」という声が聞かれたり、体育祭等の体育的行事に充実度が高いと言える。新体力テストでは、令和3年度の結果から、全国平均と比べると、すべて下回り、特に持久力に課題がみられた。
 (2)これまでの学校の取組
 ・体育的行事に全校生徒が取り組める種目の設置
 ・「思春期の心と体の成長」「電子メディア機器との付き合い方」等の健康課題に即した保健教育の実施
 ・コロナ禍におけるICTを活用した保健教育、学校保健委員会の実施

今年度の目標

- ①運動に親しむ習慣を身につけさせ、思いやりをもって互いに協力して意欲的に取り組めるようにしていく。②生活や自己を振り返りの機会と健康教育の充実を図り、自らの心身の健康を保持増進できる力の育成を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

- 上半期**
- 体育祭では、全員参加の学年種目の大縄跳びや瀬谷中リレーを企画し、昼休み等に練習時間を設ける。
 - 保健体育の体育分野の授業の始めにドリルを設定し、基本的な体力向上に取り組む。
 - 生徒や学校の実態と、その時の社会情勢に応じて、生徒及び家庭に向けて、健康づくりに必要な情報の発信を行う。(通年)
 - 長期休業中の規則正しい生活の事前計画と事後の振り返りができるように、しおりの記入ページを見直し、改善する。
 - 教職員一人ひとりが健康教育を行うことができるように、職員会議、研修の時間に、健康や安全に関する情報を発信、及び資料等の工夫改善に取り組む。(通年)
- 下半期**
- 球技大会では、各学年の実態や発達段階に応じた種目を設定し、一人ひとりが意欲的に取り組めるようにする。
 - 年に2回、各学年の実態や発達段階に応じた健康課題をテーマとして、学活等の時間で保健教育を行う。
 - 学校の健康課題解決に向けて、生徒主体となるように学校保健委員会を計画・開催する。